

エコアクション21

48期環境経営レポート

(対象期間 2023年11月1日～2024年10月31日)

『限りある資源を大切に』



『資源循環型社会に貢献』

2024年11月25日 発行

株式会社 日本資源開発社

目 次

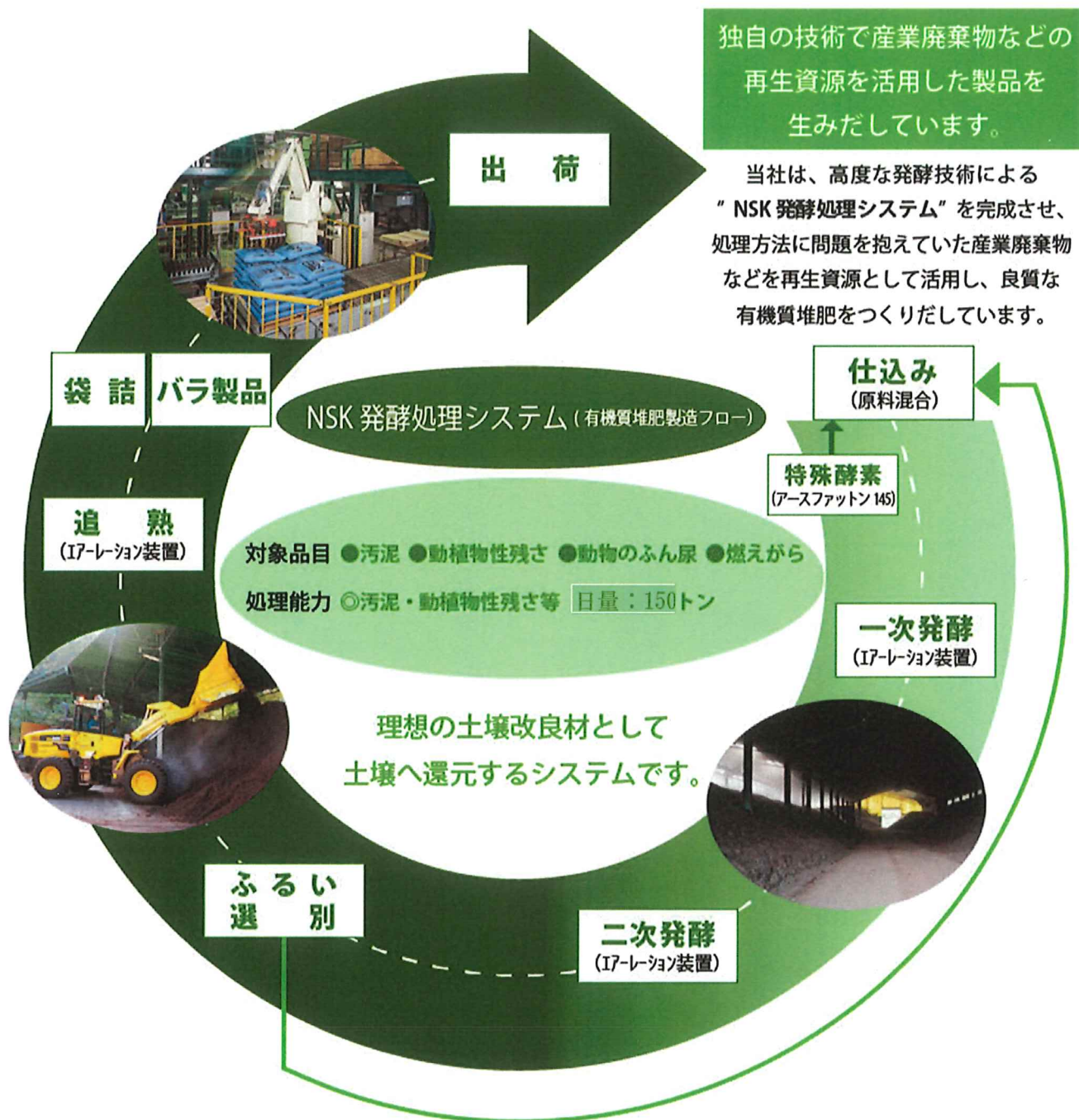
表紙	1 P
目次	2 P
当社発酵システム	3 P
製品紹介	4 P
1 環境経営方針	5 P
2 組織の概要	6 P
(1) 名称及び代表者氏名	
(2) 所在地	
(3) 環境管理責任者と担当者の氏名及び連絡先	
(4) 事業内容	
(5) 事業の規模	
(6) 事業年度	
3 認証・登録の対象組織・活動	7 P
4 組織図	7 P
5 許可・登録の内容	8 P
6 処理料金	8 P
7 バーク堆肥製造フロー	8 P
8 環境経営目標	9 P
9 当期環境経営目標及び実績	9 P
10 環境経営活動計画及び取組結果 とその評価、次年度の取組内容	10 P
11 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無	11 P
12 代表者による全体の評価と見直し	11 P
13 環境経営活動の紹介	12 P

日本資源開発社の発酵システム

届けたいのは、自然に優しい技術力



私たちは、有機資源を有効活用し、良質な有機肥料を作り出すことに成功しました。最適な土壌改良材として大いに力を発揮し、美しい花と緑の環境づくりに、お役立ちします。



大地の恵を育む、すばらしき土壌の力。

自然生態系の維持に役立つ

私たちの製品を紹介します。【当社オリジナルブランド商品】



有機質土壌改良材（パーク堆肥）

●アースファットン® 地力増進法
指定資材



地力の維持増進に欠かせない有機物。

本来、土壌には1g中に約10億個の微生物が存在しているものですが、化学肥料や土壌消毒剤の使用が微生物間のバランスを失わせ、痩土化してしまいます。豊かな土地を蘇らせ、地力の高い土壌をつくるために開発させたのが活性パーク堆肥「アースファットン」です。当社の堆肥発酵システムから生まれたこれらの製品は、農業用、園芸用、植栽用、芝張用、法面緑化、屋上緑化など広い範囲で活躍しています。

吹付工事用緑化基盤材

●サイクルソイル®



岡山県エコ製品認定
岡エコ緑化基盤材 第24号

有機質土壌改良材

●エコサイクルバーク® 地力増進法
指定資材



園芸用培養土

●花と野菜の培養土



有機質被覆材

●NSK マルチバーク



岡山県エコ製品認定
岡エコ有機質被覆材 第1号

■ その他、取引各社のOEM製品を製造しています。

環境経営方針

1. 環境経営方針

【企業理念】

株式会社 日本資源開発社は、『限りある資源を大切に』と『土に感謝し、土に返そう有機物』をモットーに資源循環型社会の形成に貢献できることに誇りを持ち、エコアクション21による環境活動に配慮した事業活動を積極的、継続的に推進することを目指します。

【行動指針】

当社は、事業活動を行うに当たり環境問題を最重要課題と位置づけ、環境への負荷を低減する為、下記の行動指針を設定し継続実施します。

1. 具体的には次のことに取り組みます。

- ① 二酸化炭素排出量の削減を推進する。（電力・化石燃料）
- ② 廃棄物排出量の削減する。
- ③ 排水量の削減を推進する。
- ④ バーク堆肥（環境配慮型製品）の安定製造の推進する。
- ⑤ グリーン購入を推進する。
- ⑥ 会社及び会社周辺の環境整備に取り組む。

これらについて環境経営目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規等を遵守します。

3. 当社環境経営方針を従業員に周知徹底します。

制定日 2013年11月1日
改定日 2020年11月2日

株式会社 日本資源開発社
代表取締役 林 大悟

2. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 日本資源開発社
代表取締役 林 大悟

(2) 所在地

本社・工場 〒709-0607 岡山市東区浦間1102番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 営業部部長 川上 芳和 TEL : (086) 297-2228
担当者 総務部 総務課 角石 秀哉 TEL : (086) 297-2228
URL <http://www.nihonshigen.co.jp> E-mail : nsk@nihonshigen.co.jp

(4) 事業内容

- ①バーク堆肥製造販売
 - 有機質普通肥料（微生物入り土壌改良材）
 - 有機質特殊肥料（微生物入り土壌改良材）
- ②園芸培養土の製造販売
- ③微生物資材の販売
- ④産業廃棄物収集運搬・処理業

(5) 事業の規模

法人設立 1976年11月18日
資本金 4,500万円
売上高 5億円

	本社
従業員	26 名
延べ敷地面積	20,047 m ²

受託した産業廃棄物の処理量

収集運搬量	515 t		
中間処理量	26,897 t	うち再資源化量	26,897 t

施設の種類	中間処理施設
処理施設	1,852m ²
保管上限量	4,254m ³
処理能力	150 t / 日
発酵処理による 堆肥製造	45,000 t / 年

車両台数 ※印 収集運搬許可車

車種	台数
10 t ダンプ	※2 台
4 t 平ボディ	1 台
4 t ダンプ	※1 台
2 t ダンプ	1 台
合計	5 台

車種	台数
ホイールローダー	16 台
油圧ショベル	4 台
フォークリフト	14 台
合計	34 台

主要設備

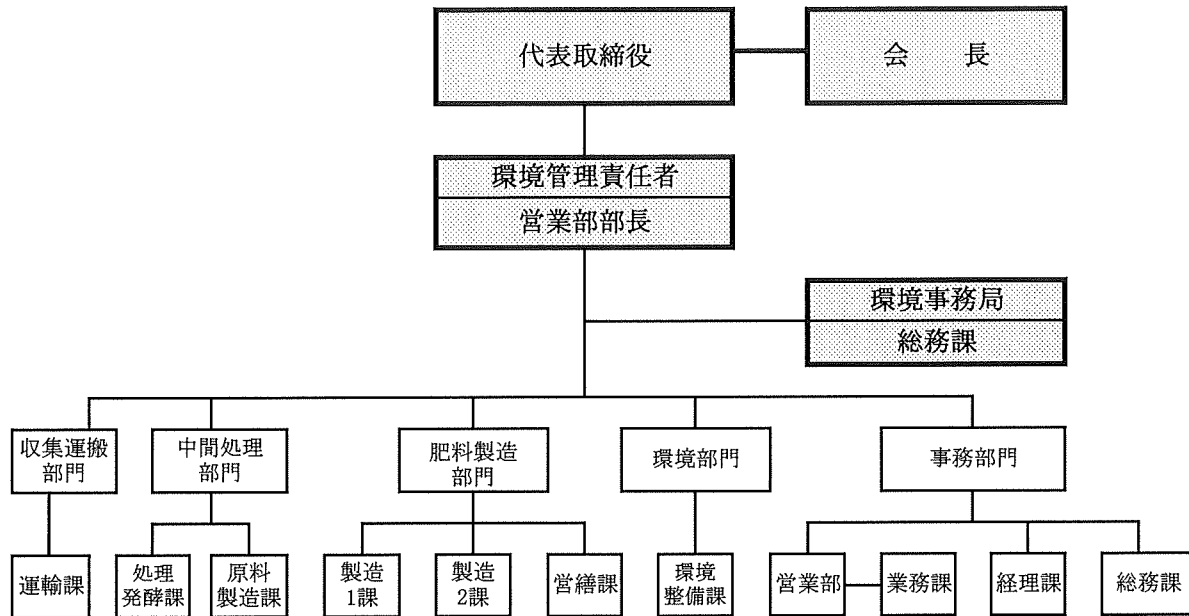
名称	台数	備考	台数
脱臭設備	1 式	NSK発酵処理システム	1 式
バーク堆肥全自動包装設備	1 式	園芸培養土全自動包装設備	1 式

(6) 事業年度 11月1日～翌年10月31日

3 対象範囲(認証・登録範囲)

認証・登録事業者名 株式会社日本資源開発社
 事業活動 バーク堆肥製造販売、園芸培養土の製造販売、微生物資材の販売、産業廃棄物収集運搬業・中間処理業
 対象事業所 本社・工場

4 組織図



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・地元地域貢献と人材育成 ・環境経営に関する統括責任者 ・エコアクション21を運用し維持する為の経営資源を用意する ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員の周知 ・環境経営目標・環境経営活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示の実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境管理法規等の取りまとめ表の承認 ・環境経営目標・環境経営活動計画を確認 ・環境経営活動の取組結果を代表者に報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、E A21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境管理目標、環境管理活動計画書原案の作成 ・環境管理活動の実績集計 ・環境関連法等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等の取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境管理レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局へ送付）
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態の対応の為の手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動への参加

5. 許可・登録の内容

パーク堆肥生産・販売及び産業廃棄物処理に関わる許認可

生産・販売等	管 轄	届 出 内 容	届 出 日
	農林水産省	普通肥料登録	平成12年10月1日
	岡山県	特殊肥料生産業者届出	昭和53年5月29日
	岡山県	肥料販売業務開始届出	昭和53年5月29日

	管 轄	許 可 番 号	燃え殻	汚泥	木くず	動植物性残さ	動物のふん尿	許可取得年月日 及び有効年月日
産廃中間処理	岡山市	第08320009917号	○	○	○	○	○	令和5年11月28日 令和10年11月27日
産廃収集運搬	岡山県	第03301009917号	○	○	○	○	○	令和5年11月28日 令和10年11月27日

※ 積替え保管なし

6. 処理料金

処理費につきましては、廃棄物の性状、数量、距離等により異なりますのでお気軽にご相談ください。無料にてお見積りを致します。

7. パーク堆肥製造（発酵処理）フロー

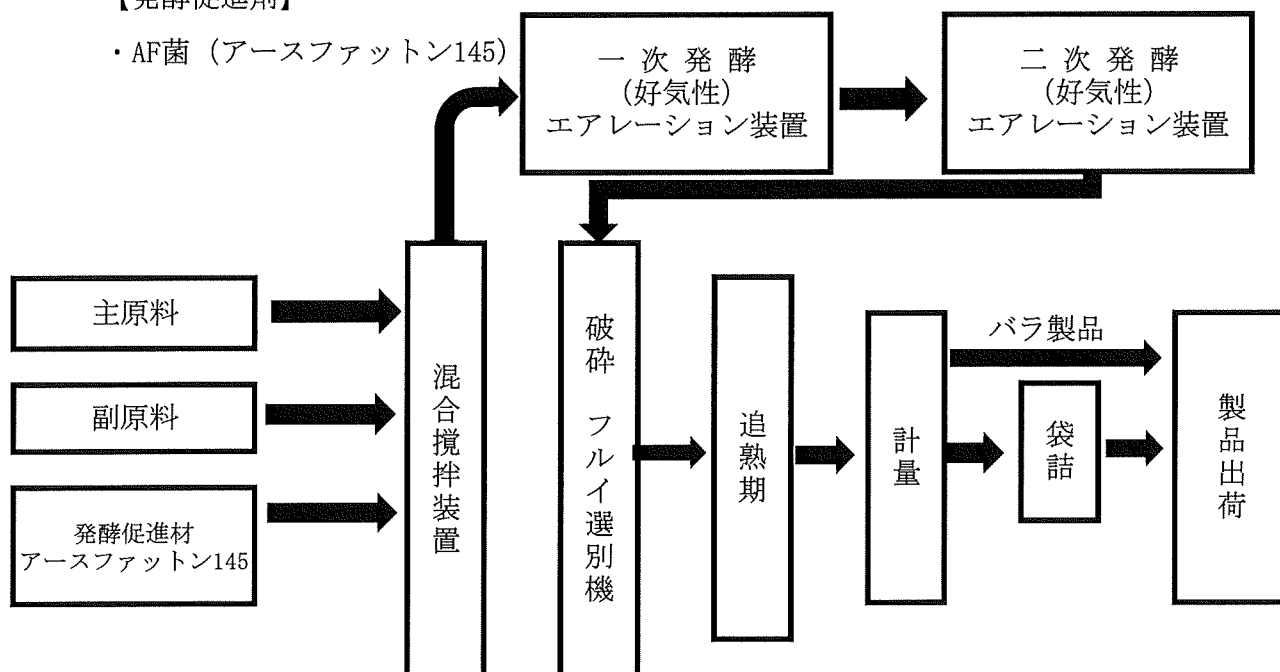
【製品の種類】 ・パーク堆肥（有機質肥料）

【原料の種類】

- ・ 主原料 樹皮・剪定枝葉等
- ・ 副原料 汚泥、植物性残さ等

【発酵促進剤】

- ・ AF菌（アースファットン145）



8. 環境経営目標

項目		基準値	第48期	第49期	第50期	第51期
			2023. 11. 1～ 2024. 10. 31	2024. 11. 1～ 2025. 10. 31	2025. 11. 1～ 2026. 10. 31	2026. 11. 1～ 2027. 10. 31
			通期 (目標)	通期 (目標)	通期 (目標)	通期 (目標)
		(基準年)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素の削減	kg-CO ₂ 基準年度比	468,858 38期	417,284 89%	412,595 88%	407,906 87%	403,218 86%
車両系燃料による二酸化炭素の削減	kg-CO ₂ 基準年度比	662,872 38期	589,956 89%	583,327 88%	576,699 87%	570,070 86%
総二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ 基準年度比	1,131,730 38期	1,007,240 89%	995,922 88%	984,605 87%	973,288 86%
紙・段ボール等の廃棄物削減	kg 基準年度比	2,074 38期	1,846 89%	1,825 88%	1,804 87%	1,784 86%
木質系パレットの廃棄物削減	kg 基準年度比	5,160 38期	4,592 89%	4,541 88%	4,489 87%	4,438 86%
バーク堆肥の製造	t 基準年度比	35,861 38期	28,689 80%	28,689 80%	29,047 81%	29,406 82%
グリーン購入の推進	% 基準年度比	100 38期	54%	55%	56%	57%
水道水の削減	m ³ 基準年度比	1,631 38期	1,452 89%	1,435 88%	1,419 87%	1,403 86%

電力の二酸化炭素実排出係数：中国電力 0.545kg-CO₂/kWh（2022年度実績公表分より）

9. 当期環境目標及び実績

項目		基準値	第48期		達成状況
			2023. 11. 1～2024. 10. 31		
		(基準年)	(目標)	(実績)	
二酸化炭素総量 (電力+燃料+その他)	kg - CO2	1, 166, 459	—	987, 320	—
電力による二酸化炭素の削減	kg - CO2	468, 858	417, 283	468, 738	89%
車両系燃料による二酸化炭素の削減	kg - CO2	662, 872	589, 956	506, 363	117%
紙・段ボール等の廃棄物削減	kg	2, 074	1, 846	1, 844	100%
木質系パレットの廃棄物削減	kg	5, 160	4, 592	4, 581	100%
バーク堆肥の製造	t	35, 861	28, 689	24, 942	87%
グリーン購入の推進	比率	100	54%	65%	120%
水道水の削減	m ³	1, 631	1, 452	551	264%

達成状況

目標達成 : 100%以上

目標未達成 : 100%未満

10. 環境経営活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成

活動：○できた △まあまあできた ×できなかった

	取り組み計画	達成 状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減	電力による二酸化炭素削減		
	・数値目標	×	目標 417,283kg - CO ₂ 実績 468,738kg - CO ₂
	・不要照明の消灯	△	目標未達成。
	・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房21℃）	△	各自がもう少し意識をして少しでも無駄をなくせるようにしてい
	・エネルギー供給は、導入時省電力型を購入する	×	く。
	・回転制御が可能なインバーターの購入	×	
	車両系燃料による二酸化炭素削減		
	・数値目標	○	目標 589,956kg - CO ₂ 実績 506,363kg - CO ₂
	・急発進、急加速、急停車の排除	○	目標達成した。
	・無駄な冷房はしない	○	車両運転時には、急発進、急加速、急停車の三急をしないように安全運転に徹しましょう。
	・低燃費車両の導入	○	
二酸化炭素排出量の削減	総二酸化炭素削減		
	・数値目標	○	目標 1,007,239kg - CO ₂ 実績 975,101kg - CO ₂
			目標達成した。
			達成できたのは車両系燃料を削減できたことが大きい。今後も無駄のない運転を意識していくように。
廃棄物排出量の削減	紙、段ボール類廃棄物の削減		
	・数値目標	○	目標 1,846kg 実績 1,844kg
	・コピー使用の2%削減	○	目標達成した。
	・コピーする時は、残数が出ない様にする	○	コピーを複数枚したあとは必ずクリアするようにしてい
	・コピー用紙の両面使用	○	く。を出さないようにしていく。
	木質パレット廃棄物の削減		
廃棄物排出量の削減	・数値目標	○	目標 4,592kg 実績 4,581kg
	・焼却パレットの部材を修理用部材に再利用して焼却量の削減	○	目標達成した。廃パレットを焼却すると二酸化炭素発生してしまうので、できるだけ修理をし、使用も減らしていく。
パーク堆肥の安定製造	パーク堆肥の安定製造		
	・数値目標	×	目標 28,689 t 実績 24,942 t
	・新規取引先の獲得	○	目標未達成でした。
	・設備のメンテナンスの充実	△	引き続き原料不足が続いており、生産を上げることができなかった。少しづつ増えてきてはいるので、引き続き確保を継続していく。
グリーン購入	グリーン購入の推進		
	・数値目標	○	目標 購入比率54% 実績 65%
	・事務用品のグリーン購入比率の向上	○	目標達成できた。
			引き続き目標に向かって頑張ってください。
水使用量の削減	水道水の削減		
	・数値目標	○	目標 1,452m ³ 実績 551m ³
	・節水の呼びかけ	○	目標達成できた。
	・構内配水管の定期的な漏れチェック	○	水やり、洗車、手洗い等節水を意識しているだけでも結果が変わるので、常に呼びかけていくようにしていく。
その他	地域社会貢献活動		
	・目標	○	目標 実施すること 実績 実施済
	・堆肥の配布	○	堆肥を町内会へ配布し当社の事業内容を理解してもらう。
	・定期的な除草	○	12月～1月 7月～8月
	・クリーン化事業への参加 地域の清掃活動	○	1/31（水）実施
	・進入路の沿線に季節に応じた花で埋める	○	実施済み

11. 主な環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

2024年10月末時点における環境法規への違反はありません。又、環境当局から違反等の指摘は過去9年間なく、訴訟もありません。

適用される法規制類

遵守出来ている ○ 出来ていない ×

法令	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守の評価
廃棄物処理法	産業廃棄物収集運搬業・産業廃棄物処分業の許可	○
	運搬時の表示・書類の携帯	○
肥料取締法	普通肥料の登録、特殊肥料の届け出	○
大気汚染防止法	事故時の措置と届出	○
フロン排出抑制法	フロン類の適切な管理 簡易点検の実施	○
道路運送車両法	自動車の登録	○
	道路運送車両の保安基準、点検及び整備	○
騒音規制法	特定施設の届け出（破砕機・空気圧縮機）	○
	地域別振動規制の遵守	○
振動規制法	特定施設の届け出（破砕機・空気圧縮機）	○
	地域別振動規制の遵守	○
消防法	規定する危険物を指定数量の1/5以上を貯蔵、又は取り扱う場合の届け出る	○
悪臭防止法	規制地域内で特定悪臭物質の排出基準の遵守	○
プラスチック資源循環促進法	プラスチック製品資源の節約や有効利用を促進	○

12. 代表者による全体の評価と見直し・指示

バイオマス発電所の乱立で燃料需要として木質資源価格が高騰し、パーク堆肥の主原料が品薄入手困難な状況は年々加速度を増している。

環境経営活動は目標値を概ねクリアしたが、国策自体が環境に配慮する意識が大きく欠けており今後の見通しも決して明るくはない。

COP（国連気候変動枠組条約）会議ではパーク堆肥は緑化資材でもあり土壌炭素含有を増やしCO₂の大気放出を減少させる効果（グリーンカーボン）も明言されておりヨーロッパでは積極的な施用が推進されているが、日本はまだまだ後進国であるばかりでなく『化石賞』という不名誉な賞を受け今後の国政を問われている。

当社としては資源循環型社会に貢献できる企業として誇りを持ち、更なる努力を継続していく所存である。SDGsの意義と認識の広がりには周辺住民にも浸透し、当社が社会貢献度の高い企業として認知されるようになった事は少なからず社内の意識改革にもつながっている。今後はCSR活動を通じさらに当社の業務意義の理解を深めてもらうよう努力していく所存である。

2024年11月15日

株式会社 日本資源開発社

代表取締役 林 大悟

- | | | |
|-------------|--|--|
| ・ 環境経営方針 | ☐ 変更あり | ☒ 変更なし |
| ・ 環境経営目標/計画 | ☒ 変更あり | ☐ 変更なし |
| ・ 実施体制 | ☐ 変更あり | ☒ 変更なし |

13. 環境経営活動の紹介

・花いっぱい運動

当社は、環境に優しい企業として産廃から堆肥を製造し、その堆肥を使用して進入路の道端（通称花街道）に花を植え、育てています。通行人や納品業者・引取り業者の方々には四季折々の花々で喜んでもらっています。

当社進入路入口



進入路入口の花々



当社の工場への通路を花街道（フラワーロード）と命名



花見坂



花見坂



道端の花々



大鉢の花々



種から育成した葉牡丹



当社事務所と花壇



・試験圃場で自社生産の堆肥を使用して季節に応じた種々の野菜を植えて育成しています。現在は、レタス・白菜・ニンジン・ネギ・大根・春菊・ニンニク・水菜等の野菜を植え付けしています。

また採れた野菜は、社員に配られ収穫の楽しみや有機栽培での安心・安全を味わっています。山裾には、渋柿や栗の木を植えて実りの秋を楽しみにしています。

試験圃場 1



試験圃場 2



渋柿・栗の木々

